



ともしび

発行・城北地区社会福祉協議会(丸亀市大手町二丁目1番20号 丸亀市中央公民館☎24-1392)

城北地区人口
世帯数 3,165
人口 7,519人
男 3,546人
女 3,973人
65歳以上独居者 326人
(3月1日現在)

昨年十二月十三日、福祉推進委員五十八人は、南国市の社会福祉法人「土佐希望の家」を訪問し、重度心身障害者の生活と介護に携わる職員の仕事ぶりを見学し、推進委員として資質の向上を図る研修を行った。

信頼の大切を学ぶ

「土佐希望の家」で研修

福祉推進委員

「土佐希望の家」は、元競輪選手だった山崎勲氏夫妻が土佐山田町で昭和四十一年に重症児を抱える家族の大変さを何とかしたいとの願いから自宅を開放して、重症児を預かることからスタートした。その後南国市に第一希望の家を四十五年に、第二希望の家を平成二年に開設し現在に至っている。ここで生活される



「土佐希望の家」で職員から話を聞く福祉推進委員

大西智城氏講師に

福祉推進委員 研修会 開く

丸亀市社会福祉協議会と城北、城西、城乾の地区社会福

ろな考えを出し合ってこそ理想的な公民館が出来るのだと思います。

城北校区にも近い将来、自治会活動をより活発にするコミュニティ組織が結成されま

新年度予算に設計費

城北公民館建設 要望出し合おう

この「ともしび」が皆さんの手元に届くころには、丸亀市の平成九年度予算も市議会を通過しておりますが、その中には「城北公民館」のための設計費が含まれています。

先日、御供所町の女性から「婦人が気軽に休息や雑談に使用できる部屋をぜひ公民館の中に作ってほしい」との希望がありました。

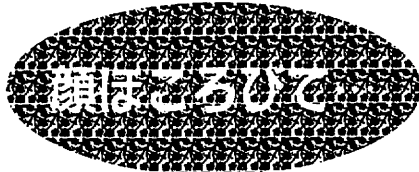
このような要望や、いろいろ

気持ちに通じてなければ二倍以上の一時間もかかるとのこと。気管に入らないかと心配して口を開けないのだそう。開設当初は、入所者のけがを心配したが、今はいかに生きがいを持たせるかが、職員の大変な仕事になっていると

私たちは地域にあつて見守りが大切であるが、互いの信頼がより求められることにも通じると思われた。

社協議会共催の福祉推進委員研修講演会が三月五日、市総合会館三階ホールで開かれ、委員のほか一般市民らが講師の話に聞き入った。

この日の講師は阿波老人ホーム施設長の大西智城氏。「男女(とも)に生きるようこび」のテーマで▼ものの見方▼出会いの大切さ▼ノーマライゼーション▼これからの人生などについて話した。この中で大西氏は「角度を変えてものを見る事が出来れば、人生は楽しくなる」と強調。そして「これからの社会、相手の心を思いながら生活することが大切」と結んだ。



初の「ふれあい会食の会」

城北校区を六つに分けて、「ふれあい会食の会」(城北地区社会福祉協議会主催)が次の日程で開かれました。

二月二十一日〓富士見町自治会館、二十三日〓御供所町自治会館、二十四日〓土居町



「富士見町自治会館会場」カラオケあり、ゲームありの楽しいひととき。参加者は食事をしながら話しに花を咲かせた。



「土居町高木神社会場」配膳をする推進委員。会場には、「幼いころを思い出してもらおう」との世話人の心遣いで、ひな人形が飾られた。

高木神社、三月一日〓北平山集会場、二日〓城東町自治会館、九日〓瓦町妙見宮社務所

各地区ではそれぞれ趣向を凝らした行事が行われました。

城北校区には、二百六十余人の独居老人(七十歳以上)がいますが、このうち、百六十人が参加されました。



「御供所町自治会館会場」老人会の現況報告や交通安全の注意もあり、参加者は熱心に聞き入っていた。参加者同士の話しもはずんだ。

カラオケあり、クイズあり。丸亀警察署員から、「頻発する死亡事故を城北からはなくしよう」との話もありました。

初めての会でもあり、運営面でいろいろと考慮する点多かったが、また実施してほしいとの声が多くあり、次回開催への励みとなりました。

新学年スタート

四月は新学年スタートの時。城北地区関係でも保育所や幼稚園、小学校、中学校に合わせて四百五十七人の新しい児童、生徒が顔をそろえます。「がんばれ新入生!」。皆で応援したいものです。

ことしの傾向のひとつとして上げられるのが、保育所に通わせる家庭が多くなったこと。

それも一歳児から。最近では、マンション住まいや核家族化で隣近所との付き合いが薄く、兄弟の数も少なくなった。そこで、子育てを共にしてゆき、

がんばれ新入生!

457人が仲間入り

仲間関係を作りたいとの願いが強いようです。

入所、入園、入学式の日程と新しく入る幼児、児童、生徒の数は次の通りです。

【平山保育所】四月七日午前十時。二十一人

【土居保育所】四月七日午前十時。二十二名

【城北幼稚園】四月九日午前十時。三十三人

【城北小学校】四月八日午前十時。七十五人

【東中学校】四月八日午後一時半。三百六人

東中学校入学式では、ブラスパンド部の演奏や生徒会役員らの歓迎の言葉などを取り入れ、新入生が早く中学生の自覚を持てるように心くばりをする。

「ゆったりママ」が優勝

ソフトバレー大会

地域婦人の健康増進と親ほくを兼ねた城北地区ソフトバレーボール大会が、三月二日城北小学校体育館で開かれました。十二チームが参加、ゆったりママ(土居三丁目)チームが優勝しました。



昨年の東中入学式風景

大西さんら四人

自治会貢献で
市長から表彰

八年度丸亀市自治会長研修
会の席上、長年にわたって自

治会長や役員を務め、自治会
活動に貢献した人たちが片山



大西 忍氏



林 繁信氏



河口 照男氏



金子 茂一氏

頑張っています

みなさんは、高木神社の夏
祭りをご存じですか。イベン
トやくじ引きで有名です。地
域が一体となって行う楽しい

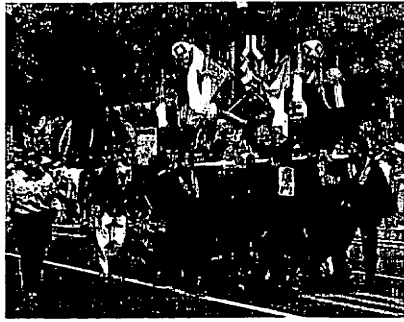
近頃ということ、土居、大
手、城東地区と広い地域を対
象としています。現在、会員
は、五十七人を数えます。

イベントに積極参加

土居の門の会

「土居の門の
会」です。名
前は、丸亀城内へ入る門の一
つに「土居門」がありました
が、これに因んでいます。会
員も、土居門のあった場所の

域の発展を目的として活動し
ています。高木神社正月の接
待、お城まつりへの太鼓台参
加、神社夏祭では、地域内の
他の団体と協力しながらイベ
ントや売店の出店などをして



お城まつりで太鼓台をかつぐ会員たち

行事となつて
います。十七
年前（昭和五
十五年）の夏
祭りの後、こ
れだけの若者
が集まるので
あれば、青年
会をつくろう
ではないかと
発足。これが

昭和六十年の高木神社の新
築時には、古い元の神社取り
壊しなどに何回も一生懸命、
勤労奉仕をしました。今では、
心に残る良い思い出となって
います。

このような活動を通して、
会員は、それこそ兄弟のよう
な付き合いをしています。こ
の会がなければ、多くの人と
の交流の喜びも味わえなかつ
たことでしょう。愛する「土
居の門の会」、地域のふれあい
と連帯の核となつて、世代交
代をしながら子の代、孫の代
へといつまでも続いてもらい
たいと願っています。

市長から表彰されました。城
北地区からは大西忍（御供所
町第二西部自治会）、林繁信（菟
町自治会）、河口照男（御供所
町中部自治会）、金子茂一（瓦
町自治会）の四氏が表彰を受
けました。

大西氏は約六年間会長とし
て積極的に自治会活動。林氏
は五年半の間、会長として自
治会を取りまとめています。
河口氏は会長として五年間、
指導力を発揮しています。ま

青空保育で伸び伸びと

土居保育所長、梅本美代

軽やかな風の音、うれし
い春四月。二十二名の新入
児を迎え、平成九年度が定
員いっぱい九十名でスタ
ートの。一歳児から五歳児ま
での幼児が通所しています。

保育所の東側には、土器川
河川敷緑地があり、四季折々
の自然に触れ合う大切な場
の一つとなっています。



坂すべりに挑戦（亀山公園で）

学園の現場から

生まれ一年余りで初め
て集団生活に入った一歳児
も、お散歩で亀山公園や
市民ひろばなどへも出掛け
ます。五歳児に手をつない
でもらい歩く二歳児。軒の
下から「お出掛けかな」と
声をかけてくださるおばあ
ちゃん。「行ってきます」。
地域の人々に見守られてい
る喜びを感じます。公園に
は、竹のこ道、アリ地獄、
椿の森など、子どもたちで
名付けた遊び場がいっぱい
あります。発見、驚き、感
動を大切に、多くの友達
や、保育者のかかわりの
中で「人間が人間として生
きていく力」が育つよう願
い励んでいます。

た、金子氏は副会長を十年近
くにわたって務め、それ以前
に在住の風袋町では七年間会
計に携わりました。

渡し舟の名残「渡し場」

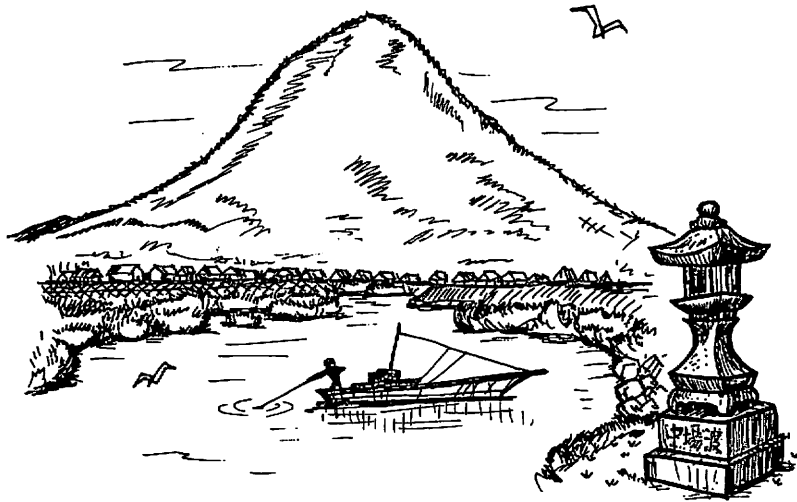
すでに、消えてしまっている町名を追って、城北地区をウオッチングしてきたわけであるが、私の手元に明治三十四年十一月二日発行の「丸亀市実測全図」著者丸亀市富屋町八十八戸友安盛任というのがある。それによると、富屋町妙



河野 智人

法寺前を東に延びる「上通町」は、米屋町から更に東の今の風袋町大西食品の角までとなっており、現在は風袋に編入されているのを見ることが出来る。百十四銀行と中国銀行の前の旧国道は南の外堀までを堀端と呼んでいたのはご存じの通り。
〔渡し場〕 土居町の中に渡し場がある。丸亀城外堀が汐入川に続く風袋町から東へ

橋を渡って土器川に至る通りを言った。この狭い川は



え・青木ゆかり

にある。土居は、生駒氏の丸亀城築城前の状況について「西讃府志」の中に次のように書かれている。

コノ地、今ノ米屋町ヲ限

橋ができるまでは、舟で渡っていたことを何びとも想像している通りで渡し場とはそこから呼ばれたが、町名としては「土居町」の中

にある。土居は、生駒氏の丸亀城築城前の状況について「西讃府志」の中に次のように書かれている。

リ東側ハ鷺足郡津野郷ニツキ、西側ヨリ那珂郡柞原郷

汐入川に隣接「北浦」

ニツク、開城以前ハ海浜ノ村ニテ、柞原郷ハ丸亀浦ト唱ヘテ高四百六石ノ田畝アリ、津郷ハ土居村トイヒケルヲ、慶長六年(一六〇一)其北辺ニ宇多津ナル平山ノ里人ヲ移シ、始メテ三浦ト呼ンテ高百七十二石ノ田畝アリ(以下略)
つまり米屋町より西は、那珂郡柞原郷に属する丸亀浦で、東は鷺足郡津郷の土居村といていたということとで、米屋町以東は全部土居であったと考えられる。
〔北浦〕 前記丸亀市実測図によると、渡し場通りから北、汐入川までを「北浦」といっていたことが分かる。
なお、どういうわけか、渡し場を土器川に突き当たったあたりを「玉川」と呼んでいた。この記録はないが、今の「歓」あたりに「玉川楼」と称した高級料亭があったところから、そう呼ぶようになったのかも知れない。

(つづく)

福祉保健推進 委員制度に移行

いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせる。

やさしさと、思いやりのあるまちづくりの推進を図ることを目的としています。新たに、保健の分野での活動も加えて、新しく「福祉保健推進委員」制度が、六月一日から、発足することとなりました。

その活動のあらましは、
①地域の福祉ニーズの早期発見と関係機関への早期連絡など、地域における見守り支援活動。
②「いつでも、どこでも、だれでも」適切な福祉サービスが受けられるように、その制度や、利用方法に関する情報の提供。

③健康推進の事業として、健康づくり活動、食生活の改善、健康診査等の推進。
福祉保健推進委員をお願いする方につきましては、自治会長や、民生児童委員の方々と相談の上、市の方へ推せん申し上げることとなります。